

天然林について学びました

8月25日（火）八幡平市安比高原にて八幡平市立安代小学校5学年16名へ森林学習を行いました。

当日は、まずブナの駅内で、天然林について授業を行い、その後は、クマの避難対策を勉強して、中の牧場の観察とブナ二次林を散策してもらいました。

前回のテーマは、「人工林の育て方」今回のテーマは、「天然林について」として、ブナの二次林散策では、散策の他に実際にブナの木のを太さを測ったり、ブナの木に聴診器を当てて音を聞いてもらったりしました。

講義では、天然林は、人間がつくった人工林に対して、天然林はまわりの木から落ちたタネなどが、自然の力で育った森林で、生えている木の種類も様々で世代交代も自然にゆっくり進んでいく。散策するブナ二次林は、昭和初期、地元の人たちの木炭や漆器の資材のため皆伐され、その際、1ヘクタール当たり1本ほどの母樹が、そして当時は手鋸を使っていたため、伐採できないような大きな木が残され、それが親木となり、種子が落下し、一斉に発芽して生育した。昔は、馬や牛の林間放牧が盛んに行われていたため、ブナの稚樹の生育を妨げるササ等の競争相手が採食されたため、生育にとって好都合であった。約90年後の現在、見事なブナ二次林の豊かな森になったことを学習しました。

散策では、実際にブナの母樹の太さを林尺で測ってもらい、ブナの木に聴診器を当ててもらうなど、また、森の中でセミなどを見つけるなど、直接木に触れる体験をしてもらいました。

牧場の観察では、安比高原ふるさと倶楽部の方から、天然野柴の保全活動のために、馬を放牧していること、馬6頭に大好物のブタナを食べさせたり、馬の毛並みや生態について、ご説明をいただき、生徒には大変貴重な体験となりました。

児童からの感想として、「ブナの小さいタネからこんな太い木が育つことが分かった」「空気がおいしい」「土がふわふわしている」「馬が、草をよくたべる」「野柴の大切さが分かったとの感想が出されました。

今後も、視覚や直接触れてみる体験を重視し、安比高原の自然を直に感じてもらい、みんなが関心を持って学習できる森林学習を続けていきます。



天然林についての講義



クマからの避難対策



ブナ二次林での樹木観察



ブナの測樹



木の音を聞く



馬とのふれあい